

プロジェクト授業の中で、株式会社ワイピーファーム取材しました！

地域経済デザインコースの3年生ゼミ（演習Ⅰ）では、プロジェクト型授業の取り組みとして、6次産業化とスマート農業にかんする研究に取り組んでいます。

このプロジェクト研究では、学内トマトベリー農園を舞台に、トマトベリーの栽培（育苗～収穫）から加工・販売までを通じて、6次産業化とスマート農業という視点から、地元発の食と農の新しい価値づくりを目指しています。



この日お邪魔したのは、群馬県内で6次産業化に積極的に取り組まれている、株式会社ワイピーファームさま(藤岡市)です。スマート農業施設での生産から商品加工・販売まで、はっきりと6次産業化をかかげて事業展開する企業は県内でも貴重で、このたびの取材は学生にとって大いに励み・学びとなりました。



ワイピーファームでは独自の野菜ブランド「Yosimo」を展開しており、健康維持（ヘルスケア）をテーマに、栄養価が高く健康に良い野菜を安心安全な方法で栽培しています。「Yosimo」ブランドでは桑、ふじ美草、ちしゃとう（茎レタス）、いちじくなどが取り扱われていますが、このたびは同社を代表するトマトのスマート農業施設を見学させていただきました。十数種類にもおよぶトマ

トとプチトマトは、同社が誇る独立ポット耕による「日射比例式循環型給液システム」のもとで栽培されています。見学に際しては、システム管理上の工夫についても丁寧に解説をいただきました。なお、こちらの農園で育てられているプチトマトは、「地産地消」「安心安全」の考えから、高崎市の小学校の給食でも活用され、地域の子供たちから親しまれています。また学生たちが取り組むドライトマトの加工法についても、加工の専門家ならではの立場から、非常に実践的なご指導をいただくことができました。

師走でご多忙のところを、今回の調査研究のためにご協力くださったワイピーファームの皆様には、厚く御礼を申し上げます。今回の取材調査をもとに、プロジェクト研究をさらに発展させてまいります。なお学生による一連の調査分析や成果は、「プロジェクト型授業・学生プロジェクト研究成果発表会」（2019年1月22日（火）実施）のなかで報告される予定です。